

令和7年度 夢・志チャレンジスクール事業の取組

上越市立吉川小学校

1年生 活動名【きらきら ひつじ ぼくじょう】

9月から12月までの約4か月間、2頭のひつじ、しろとくろと一緒に過ごした。小屋の掃除や餌やり、水やりなど、全員で世話を毎日頑張った。

しろとくろが、小屋から出て過ごせるようにと柵作りに取り組んだ。柵作りでは、初めてノコギリを使って木を切ったり、金づちで釘をうったりした。一人ではノコギリで木を切ったり、釘で木をとめたりはできない。友達と協力をして広い柵を作り上げ「きらきらひつじぼくじょう」を完成させた。牧場で過ごすしろとくろと接する中で、他の学年の友達にもひつじと触れ合ってもらいたいと考え、「きらきらひつじぼくじょう」のイベントを開いた。

しろとくろの毎日の世話やイベントを通して、みんなが考え、協力して活動するよさを実感することができた。



2年生 活動名【春・夏・秋・冬を楽しもう】

春の高田公園花見や吉川三大しだれ桜の見学、夏の長峰池での水遊びやすいかわり大会、秋の尾神岳の紅葉見学やスイートポテト作りなど、それぞれの季節の活動を楽しんだ。どの活動も思い切り楽しむとともに、それぞれの季節の素晴らしさを感じることができた。また、学校周辺の探検に行き、季節によって自然の様子も地域の様子も変化することに気付くことができた。「春の吉川は、ピンク色や黄色などの明るい色でいっぱいだ!」「夏は草や葉っぱの緑でいっぱいだ。」「商店街には七夕飾りがあるね。」「虫もたくさんいる!」「秋は黄色や赤色や茶色がいっぱいの季節だ!」「気温が下がって涼しくなったね。」と、子どもたちは気付いたことをたくさん話した。

季節ごとに、楽しかったこと、気付いたこと、素晴らしいと感じたことなどを、五・七・五で表した。子どもたちは、「よもぎだんご 作って楽しい おいしかった」「長みね池 貝がいっぱい きれいだな」「くりひろい いっぱいあった ちっちゃいな」など、子どもらしい、素敵な作品を作ることができた。



3年生 活動名【推しの区～吉川すてきな場所・すてきな人・すてきな自分～】

道の駅にある「四季菜の郷」に、3年生は年間を通して何度も訪れた。棚に並べられている商品を見たり、店員さんに質問したりすることを通して、吉川には季節ごとにたくさんの特産品があることを知ることができた。

2学期は、四季菜の郷で売られている様々な特産品の中から、いろいろな人に紹介したい商品（推しの特産品）を選び、PRする活動を行った。子どもたちは、「みそ」「りんご」「くり」の3つのグループに分かれ、「どんなことを伝えたらよいか」を考え、本やインターネットを活用したり、生産者を直接訪ねたりするなどして詳しく調べた。そして、調べて分かったことを、ポスターやチラシにまとめた。

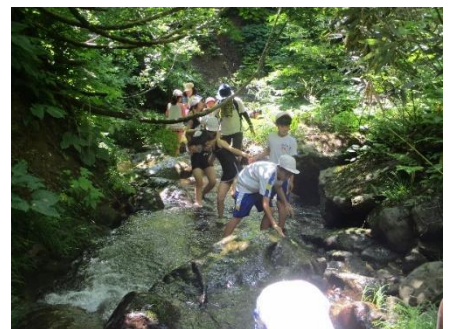
11月に四季菜の郷で行ったPR活動本番では、栄養やレシピなどの調べた情報をクイズにして紹介するなど、どのグループも工夫して発表した。たくさんの方々に「推しの特産品」のすばらしさをPRできたことに子どもたちは達成感を得ていた。



4年生 活動名【吉川ってどうなっているんだろう？】

吉川区を流れる「吉川」を調査した。「吉川ってどこから流れてくるんだろう？」「そもそも川の始まりってどうなっているんだろう？」と疑問に思った子どもたちは、吉川の始まりの様子を知るべく、川谷に源流探検に行った。豊富な清流を五感で感じながら吉川の源流の様子を学んだ。さらに、大出口泉水にも見学に行き、湧き水の様子を見たり飲んだりした。吉川上流の水は冷たく透明で、尾神岳に生えるブナが緑のダムとして働き、豊かで清らかな水を一年中出し続けていることを学んだ。中流、河口部の見学では、吉川にかかる橋をたどりながら、川の様子をシートに記録した。他の川と合流しながら、柿崎の海まで流れる吉川の全体像を知ることができた。

各体験後には、iPadに保存した写真とアプリを使ってレポートを作り、記録を残した。



5年生 活動名【きずな米を育てよう】

地域の農家の方の広い田んぼをお借りしての米作りに挑戦した。昨今の米の値上がりなどから子どもたちは米についての関心が高く、米作り体験にとっても意欲的であった。農業試験場へ種まきの見学に行き、機械での種まきのようすを見学した。地域の方からおいでいただき、手作業で種を均等に苗箱に蒔き、機械と人間の作業効率の差に気が付いた。田植え体験では、子どもたちは、田んぼに裸足で入り、手作業で田植えをすることの大変さを実感することができた。秋には、稲刈り鎌による手作業での稲刈りを体験した。なかなかうまく刈り取ることができず苦勞していたが、一つ一つきれいに束ね、落ちている穂も大切に拾い集めていた。地域の方の見本を見ながら束ねた稲を「はぎ」にかけ作業も行った。

収穫した新米を食べた子どもたちは、「いつものお米より弾力がある」「とてもおいしい」「やっぱりお米は大切」と自分たちが関わって作ったお米のおいしさに感激するとともに、これからもおいしいお米を食べられるようにしていくためにはどうしていったらよいかを考えることができた。



6年生 活動名【吉川のよさを伝えよう】

吉川三大しだれ桜の見学、やったれ祭りの稲穂竿灯作り、吉川にある文化財の見学を行った。稲穂竿灯作りの前には、やったれ祭りの実行委員の方から、やったれ祭りの歴史や祭りに込められた思いを聞くことができた。また、閻魔堂や報尽為期碑、仏足石の見学では、吉川にある歴史的な文化財をいくつも見学することを通して、吉川の歴史を感じた。特に報尽為期碑の見学では、「雪崩が起きて亡くなった人がいたことは知らなかった」「山のまだ奥に人が住んでいたのは、驚いた」という声がたくさん聞かれた。見学や講話を通して子どもたちからは、「吉川に住んでいても知らないことがまだまだある」「まだ知らない吉川を見つけてみたい」と改めて吉川のまちの広さや素晴らしさに気付くことができた。

見学で撮った写真を用いたり、話を聞いて、見たり感じたりしたことをパンフレットにしてまとめた。また、ある児童は、「たくさんの人々の思いや行動によってしだれ桜や文化財が現代まで残っていたり、やったれ祭りが続いていたということが分かった」と吉川のよさを伝える文章を考えた。



あじさい学級 活動名【季節を感じよう・味わおう】

季節を味わうことは、心身の健康に良い影響を与えたり、子どもの自立心や学ぶ力を育んだりする上で大切なことである。今年度も子どもたちと季節を感じるような教育活動を行ってきた。

1つ目は、一人ひとりがプランターで『いちご』を、畑では『ポップコーン』を栽培した。継続的に植物を育てる活動を通して、身近な自然の変化や植物の成長の様子に興味・関心をもつことができた。いちごのプランターは、教室に置き毎日水やりをしながら植物の成長の過程を目にしてきた。「実ができた」「収穫できた」など、植物の成長に気づき、親しみをもつことができた。ポップコーンは、2月10日に調理をしてあじさい学級のみんなで味わった。

2つ目は、月ごとに関連した飾りや掲示物を作る活動を通して、季節を感じてきた。学校行事と関連させたり、その季節の木の実や植物を使用したりした。自分で作ったものを掲示することは、最後までやり遂げることの大切さや達成感を味わうことにつながった。



【ポップコーンの苗の間引き】



【11月の飾り:木の実や枝を使用】